

ハンドボール競技の7 mスローにおける日本トッププレイヤーの個人戦術力

高橋 弥那 (202010054、ハンドボールコーチング論)

指導教員：藤本 元、會田 宏、山田 永子

キーワード：技術力、戦術的思考力、間合い

【目的】

ハンドボール競技における各局面のシュート成功率に関する研究では、あらゆるシュートの中で7 mスローのシュート成功率が最も高いと報告されている。また、7 mスローの結果によって生じる心理的影響が個人またはチームのパフォーマンスを左右し、試合の最終結果に間接的に影響するため、ハンドボールのゲームにおいて7 mスローを決めることは重要であると考えられる。しかし、7 mスローに関する先行研究には、シューターの立場から技術力と戦術的思考力の両方に着目したものは見当たらない。

そこで本研究では、日本のトップレベルのプレイヤーが7 mスローを行う際にどのようなことを考え、どのようにして7 mスローを打っているのかを、個人戦術力の観点から明らかにすることを目的とした。

【方法】

① 対象者

2014-2019 年の日本代表選手であり、日本ハンドボール女子リーグの7 mスロー得点賞を3回受賞している、横嶋彩選手（以下、横嶋選手）を対象者とした。

② 研究方法と内容

まず横嶋選手に自由記述形式のアンケート調査を行った。それを参考資料として使用し、インタビュー調査を実施した。インタビュー調査では、アンケート調査で挙げられた上手くいったシーンと上手くいかなかったシーンの映像を流しながら、その時に考えていたことや、なぜそのプレーを選択したのかなどについて質問し回答を得た。その後、インタビューでの発言内容の逐語録を作成した。それを、「スカウティング」、「7 mスローを打つ前に意識しているポイント」、「7 mスローにおけるかけ引き」、「メンタル」、「個人戦術力の習得」の5つの項目に分類し、テキストの作成と分析を行った。分析は、本研究の妥当性と信頼性を高めるために、日本スポーツ協会公認コーチ4の資格を持つハンドボールコーチングの専門家2名とともにを行った。1回目のインタビュー調査での発言の意図をより詳しく調査するために、2回目のインタビュー調査をオンライン

形式で行い、1回目のインタビュー調査の発言内容から抽出された疑問点を中心に質問し、回答を得た。その内容を追加したテキストを対象者に送付し、その内容が発言の趣旨と異なっていないか、過失および訂正箇所がないかを確認した。

【結果と考察】

① 相手チームのGKとの対話

横嶋選手は、相手チームのGKをよく観察し、GKの意図を感じ取ろうとしており、間主観的にGKと対話している。また、シュート時のGKの観察に集中するために、相手チームのGKの7 mスローに関するスカウティングは行っていない。

② 自分に有利な間合い

横嶋選手は、7 mスロー開始の合図の前から自分の間合い（リズム）に持ち込むことを考えている。さらに、審判との関係においても、審判の状況を確認したり、アイコンタクトを取ったりするなど自分に有利な間合いにするための工夫を行っている。

③ 高い個人戦術力の構造

横嶋選手が行う7 mスローは、特定のシュートコースの選択ではなく、シュートフェイク動作を入れ、何回目の腕の振りでボールをはなすかという選択のみを行っている。シュートフェイク動作をいかに使って、GKを動かすかという戦術的思考力が働いているため、技術力の発揮は前意識的に行っていると考えられる。それは、横嶋選手の技術力は自らの動きに意識を向けることなく遂行できるレベルまで習熟していることを意味している。

さらに、横嶋選手は、相手チームのGKや審判についての必要な情報だけを取り入れようとしており、必要な情報だけに集中することで、自身の個人戦術力を最大限発揮できるようにしていると考えられる。

【結論】

本研究では、横嶋選手のような高いレベルでGKとのかけ引きを行うために、すなわち高い個人戦術力を発揮するためには、前意識的に安定して発揮できる技術力と相手との対話から必要な情報を読み取り、適切なプレーの選択を行える戦術的思考力を身に付ける必要があることが示唆された。